

対象	小学校高学年以上
教科	社会科
該当 単元	小学5年 「わたしたちの 生活と工業生産」 ・ これからの工業生産と わたしたち 中学3年(公民) 「これからの 日本経済の課題」 ・ 循環型社会に向けて
教科書	東京書籍・教育出版等
掲載日	2017.12.15. 朝刊 12版 6面

### 資源リサイクル目指す

【バンコク＝山上隆之】トヨタ自動車は十四日、豊田通商などと協力し、タイで車の廃車処理や資源リサイクルの支援に乗り出すと発表した。タイには廃車処理に関する法律がなく、エアコンの冷媒に使われる温室効果ガスのフロンが大気中に漏れ続けるなど、環境悪化が懸念されている。二年間の実証結果を踏まえ、タイ政府への政策提言を目指す。

トヨタによると、廃車処理を巡り自動車メーカーが政府を支援するのは世界で初めて。

バンコク近郊にある豊田通商子会社のリサイクル工場に月二十台程度を持ち込み、フロンやオイルなどを回収。さらに解体して中古部品や資源として再利用する。こうした実証を二年間続け、業者の許認可や廃車手続きなどタイの事情に沿った法整備を提言する。

日本の「自動車リサイクル法」のような法律がないタイでは現在、廃車となった車は業者がそれぞれ「保管」していることになっているが、事実上は野放し状態

## トヨタ 廃車処理でタイ支援



廃車となった車の多くは事実上放置されている。バンコク郊外で（トヨタ提供）

だ。一方で市場は拡大を続けており、年間で数万台程度にとどまっている廃車台数は、二〇二〇年ごろから二十万〜三十万台に増える予想されている。

バンコクで記者会見したタイのスラサック天然資源・環境相は「廃車の放置が環境に与える影響は計り知れず、トヨタの支援に感謝したい」と謝意を表明。現地法人タイトヨタのニンナート会長は「循環型社会づくりをタイ政府と一緒に考えたい」と意欲を語った。

問1：トヨタがタイでまず2年間行おうとしている取り組みをまとめましょう。

- ( )程度を( )に持ち込み、( )や
- ( )などを回収、さらに( )して( )や
- ( )として再利用する取り組み

問2：なぜ廃車処理をしないといけないのでしょうか。

から

問3：現在、事実上野放し状態のタイの廃車の数は、今後どうなると予想されていますか。

( )頃から( )に増える

発展：日本の資源リサイクルの現状について、自分の意見を書いてみましょう。

## 【活用にあたって】

小学5年生で活用していただく際は、記事を難しく感じる児童もいると思われますので、先生が記事を読み、言葉の意味などに解説を加えて取り組んでいただけるとよいと思います。ここでのねらいは「日本が持続可能な社会を目指して行っている取り組みについて資料を活用して調べ、読み取ることができる」とあります。それを考えると、国内のみでなく海外でも持続可能な社会を目指している企業の努力がよく分かるのではないのでしょうか。

中学3年生での活用では「経済活動と環境」という視点から、循環型社会の実現を日本が海外諸国と連携して行う重要性や、企業・行政・住民がこれまで以上に協働しながら活動する重要性を考えていけるとよいと思います。

### 解答例

問1： エアコンの冷媒に使われる温室効果ガスのフロンが大気中に漏れ続けるなど環境悪化が懸念される

問2： 月20台 ・ リサイクル工場 ・ フロン  
オイル ・ 解体 ・ 中古部品 ・ 資源

問3： 2020年・20万～30万台

発展： この単元の学習を通して学んだことを活かし、根拠を添えて自分なりの意見が書けると良いです。